

行政改革推進会議  
独立行政法人改革等に関する分科会  
第三ワーキンググループ 説明資料

独立行政法人家畜改良センター

農林水産省  
平成25年10月

# (独)家畜改良センターの概要

## 1 法人概要

- 我が国畜産の発展と国民の豊かで安全・安心な食生活の確保のために、家畜の生産性向上、品質向上、コスト低減の基盤となり、6次産業化にも貢献できる遺伝的多様性を考慮した家畜の改良増殖及び飼料作物種苗の増殖等を行う法人
- 前身は農林水産省の機関であり、県や民間では技術や採算性等の面で実施困難なリスクの高い業務を実施。

- 職員数:796名(H25.4.1現在)
- 平成25年度予算額 7,145百万円  
(うち運営費交付金 7,009百万円)
- 本部:福島県西郷村

## 2 業務内容

### 全国的な視点での家畜改良



#### ○家畜の遺伝的能力評価や優良種畜の生産・供給等

- ・全国の乳用牛及び肉用牛の能力向上に寄与  
(産乳量年当たり約80kg、増体量年当たり約4kg向上)
- ・県が作出した地鶏等の約8割がセンター産の種鶏を利用

### 飼料作物種苗の増殖等



#### ○飼料作物種苗や飼料用イネ種子の増殖

- ・国内で育成された飼料作物品種の約8割を増殖
- ・約8,000ha分の飼料用イネ種子を供給(24年度)

### 牛トレーサビリティ業務



#### ○牛の出生からと畜までの履歴情報の記録・公表等

- ・BSEのまん延防止、国産牛肉の安全性・信頼性の向上に貢献
- ・1日当たりの検索頭数約10万頭

### 種畜検査及び種苗検査

- 雄畜の伝染性疾患や遺伝性疾患の検査等
- OECD種子品種証明制度に基づく各種検査
- 飼料作物種苗の表示に関する検査

- ・年間約5,400頭の種畜検査を実施(24年度)
- ・年間約1,200点の種苗検査を実施( " )

### 研修指導

- フィールドを利用した実技等の研修指導

### 外部支援

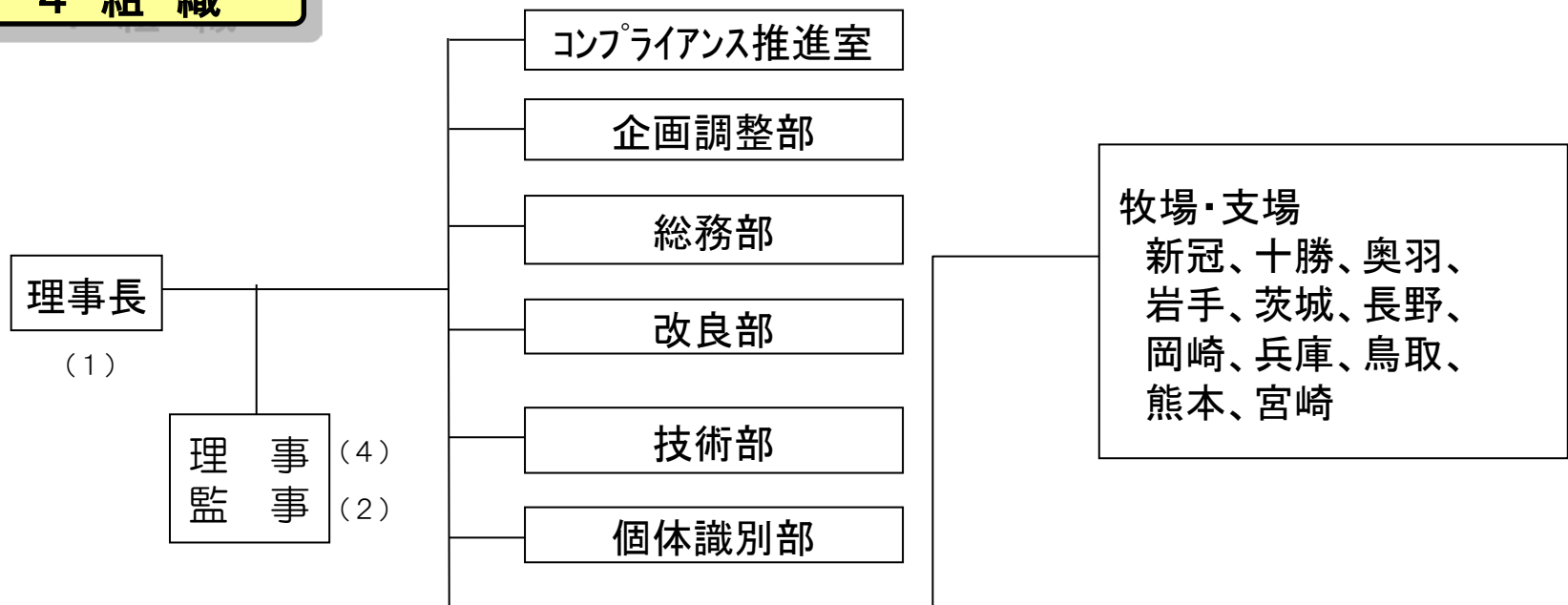
- 大規模な家畜伝染性疾患や自然災害等に対する畜産部門への支援

- ・宮崎県下の口蹄疫防疫作業に対し、延べ4千人の職員を現地派遣
- ・東日本大震災の復興支援として、被災地域の放れ畜の捕獲等に延べ2千人の職員を派遣するとともに、粗飼料(計1,100t)を緊急提供

### 3 沿革

- ・明治 5年: 開拓使所管牧場として後の新冠牧場を創設（以降、全国に種馬場、種羊場、種鶏場を設置）
- ・昭和21年: 農林省種畜牧場として再編
- ・平成 2年: 効率的な家畜の改良増殖等を推進する主体として、種畜牧場を統合し、農林水産省家畜改良センターを設立
- ・平成13年: 特定独立行政法人家畜改良センターに移行（職員の身分は公務員）
- ・平成18年: 独立行政法人家畜改良センターに移行（職員の身分は非公務員）

### 4 組織



# 我が国における家畜改良増殖の仕組み

家畜改良センターは、国が定める「家畜改良増殖目標」等を実現する施策実施機関。

国が設定した「中期目標」に基づき、県や民間では取り組み難い遺伝的多様性を考慮した家畜の改良増殖、全国規模での遺伝的能力評価等に取り組み、我が国畜産業の発展を下支え。

農林水産省

国全体の改良方針・体制の企画

(独)家畜改良センター

・全国規模での遺伝的能力の評価

・高度な技術を駆使し、遺伝的多様性を考慮した種畜の作出

〔収集データ〕

〔評価結果〕

〔候補種雄牛の供給〕

民間団体

・血統情報の収集、とりまとめ

・泌乳・枝肉情報の収集、とりまとめ

精液供給事業者  
(県・民間)

・候補種雄牛の能力検定

選抜

〔泌乳・枝肉等のデータ〕

〔精液供給〕

畜産農家

(乳用牛・肉用牛の生産、牛乳・牛肉の出荷)

## 5 牧場の配置状況

